

係助詞の意味と結び

	意味	結び
や・か		形
ぞ・なむ		
こそ		形

- ・「ぞ、こそ」は、散文・韻文ともに用いられる。
- ・「なむ」は、会話文や手紙文で作者の思いを述べる部分で多く用いられる。
- ・強意の強さは、「こそ」「ぞ」「なむ」の順である。

係り結びの留意点

(1) 結びの省略

- ・文脈から判断して類推できる言葉が結びになる場合は、省略されることがある。
- 「と」（引用の格助詞）＋係助詞↓（言ふ、聞く、思ふ）
- 「に」（断定「なり」連用形）＋係助詞↓（あらむ、はべらむ）

(2) 結びの流れ（消滅）

- ・結びになるべき語に接続助詞が付いて文が続く場合、接続助詞の接続が優先され、係り結びは成立しない。

係助詞の特殊な用法

- (1) 「こそ」＋已然形＋「、」＝逆接
- (2) 「も＋ぞ、も＋こそ」＝……シタラ困る、……シタラ大変々。

基本問題

- (1) よろづのことも、初め終はりこそをかしけれ。
- (2) さても、いくつにかなり給ひぬる。
それにしても
- (3) 我ばかりかく思ふにや。
- (4) たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりはなどが生きざらむ。
- (5) 中垣こそあれ、一つの家のやうなれば、
- (6) 遅れて来る人もぞある。